

令和7年度
名寄市教育改善プロジェクト委員会

教育指導の充実に関する研究グループ

令和8年1月20日
発表者 智恵文小中学校 風連中学校 萬城目澤 久美子
信吾

教育指導の充実に関する研究グループ

重点

ICTの効果的な活用

内容

- 1 校務にICTを効果的に活用する方策
(生成AIの活用)
- 2 AIドリルの効果的な活用に向けた情報収集と活動啓発
- 3 心の天気等を活用した健康観察の取組
- 4 学校風土の見える化を図る取組 (Web QU)

教育指導の充実に関する研究グループ

1 校務にICTを効果的に活用する活動の充実

生成AIの使い方 スライド作成

①生成AI（Gemini）を使用し、参観日の案内文書を作成したい



②プロンプト（AIへの指示）を入力

あなたは中学校の教務主任です。「日」について、保護者向けの案内文書を作成したい。案内は1月にだします。
必須項目

- ・日時: 2026年2月20日(金) 13:20~
- ・場所: 本校 各教室および体育館
- ・事前申し込みは不要です。受付で来校者名簿にご記入ください。

条件

- ・非常に丁寧な言葉遣いで作成
- ・時候の挨拶から始まる

プロンプト
(AIへの指示)

文書作成

③作成された文書

令和7年度 第4回参観日 実施のご案内
寒冷の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は、本校の教育活動に対し、格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、生徒たちはまとめの学期を迎へ、進級・卒業に向けて学習および学校生活に真摯に取り組んでいるところでございます。つきましては、下記のとおり「令和7年度 第4回参観日」を実施し、生徒たちの学習に取り組む真剣な姿勢や、この一年間の成長の様子を直接ご覧いただく機会を設けたく存じます。
ご多用中のところ誠に恐縮ではございますが、この機会にぜひご来校いただき、生徒たちへの温かい励ましをいただけますよう、謹んでご案内申し上げます。

記

日時: 令和8年2月20日(金) 13時20分より
場所: 本校 各教室 および 体育館

ご来校にあたってのお願い
事前の申し込みは不要でございます。お手数をおかけいたしますが、ご来校の際は、受付にて「来校者名簿」にお名前のご記入をお願い申し上げます。

恐れ入りますが、上履き（スリッパ等）と、靴を入れるための袋を各自ご持参くださいますようお願い申し上げます。
「生成AI」を初めて使う先生方に向けたスライド資料
※各校のICT研修に活用してほしい

実践交流シートによる各校の取組の交流

1. 教員の働き方改革への貢献	2. 教育の質向上への直接的貢献	3. 生成AIの活用における今日的課題への対応
(1) 対面授業実施 ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減	(2) ハーベンシス ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減	(1) 漢字の読み方改革 ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減
(3) メーリングによる連絡 ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減	(4) ハーベンシス ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減	(2) テクニカルな問題解決 ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減
(5) メーリングによる連絡 ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減	(6) ハーベンシス ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減	(3) テクニカルな問題解決 ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減
(7) メーリングによる連絡 ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減	(8) ハーベンシス ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減	(4) テクニカルな問題解決 ・オンライン授業による授業時間の削減 ・教材作成・評価時間の削減 ・学年横断的・連続的授業による授業時間の削減



活動報告資料

「生成AI」スライドは、こちらからどうぞ。



教育指導の充実に関する研究グループ

2 AIドリルの活用

《活動の方向性》

- ・子供のためのAIドリル（ドリルパーク）活用
- ・名寄市の先生方で有効な活用事例を共有

③ AIドリルを活用していく上での用意書類（不使用）のうち、上位2つ以外は克服しなければいけない課題である。

上位2つは（「紙に書く」という事も大切にしたい等の理由で、紙媒体を優先しがち・タブレットとの相性・通信速度・ペンの性能などハード面に影響を受ける）ある意味当然の理由であり、小学校学年であるほど「紙に書く」ことの重要性は高くなるであろうし、ハード面がボトルネックになるのはAIドリルに限ったことではない。

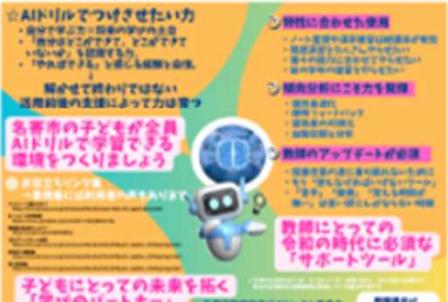
④ ドリルパークの活用で不使用を感じるとしたらどんなところですか。

コピ-

56件の回答



回答	A	B	C	D	E	F	G	H
2時間以上	40	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
1時間以上	40	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
30分以上	40	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
15分以上	40	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2
1時間未満	40	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
使っていない	40	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
2時間以上	40	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
1時間以上	40	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3



教職員向け

保護者地域向け

《具体的活動》

- ①教職員向けアンケート実施
- ②教職員向けリーフレットの作成
- ③地域・保護者向けリーフレットの作成
- ④児童・生徒向けアンケート実施



AIドリルのリーフレットを掲載している市HPへの2次元コード

教育指導の充実に関する研究グループ

2 AIドリルの活用

①成果

- ◎リーフレットにより以下の点が整理された
 - ・使いにくいポイントの把握と課題点の克服
 - ・保護者・地域に対して、導入の意図の周知

②課題

- ◎意識向上・技術向上
- ◎環境整備（管理職+MDMの協力）

③今後に向けて

- ◎AIドリルの利用による「**育てたい児童・生徒の姿**」の共有。
- ◎**学習履歴や正答率、分析結果の活用。**
- ◎子どもたちによる**学習方法の選択肢を確保。**
- ◎**教師側の不慣れや忙しさを理由に子どもがAIドリルに触れる機会が失われてはならない。**



今年度作成したアンケート結果およびリーフレットへのリンク 2次元コード

教育指導の充実に関する研究グループ

3 健康観察等を活用した「心の天気」の活用

スプレッドシート入力による 各校の活用状況の把握

中高小	実施している	しない	他の方法	まだログ	他の会員	実施	課題
高連中大	実施していない	しない				実施	課題
育習会(定期)	実施していない	しない	他の方法	スプレッドシート		実施	課題
名古屋	実施していない	しない				実施	課題
名古屋東	実施していない	しない				実施	課題
高連中	実施している	しない	スプレッドシート			実施	課題

多様な活用状況

- 「心の天気」
- スプレッドシート
- 活用していない
(学校規模に関連)

実施時間

- 登校後の朝、健康観察の時間、始業前

内容

- 「心の天気」
- 生活習慣や健康に関する具体的な項目
(朝食の有無、睡眠時間、運動時間、学習時間、メディア利用、体調等)

活動報告資料

教育改善プロジェクト 教育指導の充実に関する研究グループ 「心の天気まとめ」

傾向（模状と活用状況）

「心の天気」の活用状況は、各校において多様な傾向が見られます。（天気、スプレッド4）

・活用の多様性

○活用している 学校がある一方で、試験的活用、実施予定 という学校もあり、活用にばらつきが見られます。（学校規模の傾向もある）

○「心の天気」を利用せず、スプレッドシートや対面での実施など、他の方法で健康観察や心の状態の確認を行っている例の方が多い見られます。

・収集データの傾向

○活用している時間、メモ帳、データ収集し

課題（乗り越えるべき問題）

運用やシステム、活用方法に関して、以下のような課題が挙げられる。

- 活用方法の確立と一貫性の欠点：
 - 校内において、効果的な活用についての共通認識や取組が確立していない。

成果・課題

○内面理解の可視化

○早期対応のためのアセスメント

○機能面の利便性

▲組織的な取組に向けた活用方法の確立

▲既存の取組との重複と時間の確保

▲データの活用とシステムの制約

今後の活用

◇継続的な活用と改善

- 継続的な活用・情報の共有・組織的な対応

◇児童生徒理解の深化と自己振り返りの促進

- 「心の天気」等の活用と対面観察の併用
- 児童生徒が自分自身を振り返る場面の意図的な設定

◇ローカライズと情報共有の促進

- 各校の実態に合わせたツールの活用
- 各校の取組を参考にした効果的な活用方法の模索

◇システムの要望

- 全教職員が児童生徒の心の状態を確認できる設定の要望

教育指導の充実に関する研究グループ

4 学校風土の見える化を図る取組 「Web QU」

スプレッドシート入力による各校の活用状況の把握

名前	紙の準備が必要ない結果がすぐにわかる	事前に質問項目の把握ができなかった設定後の確認が難しい。	今後、校内で共有していく予定	データを学校全体のものとして共有していく。	▲設定確認やすぐに結果の確認について、清掃共用のもの、チームで見守る	・結果がすぐにわかり、活用しやすい	・活用法を収集する。	・他知り
名前	紙の準備が必要ない結果がすぐにわかる	事前に質問項目の把握ができなかった設定後の確認が難しい。	今後、校内で共有していく予定	データを学校全体のものとして共有していく。	▲設定確認やすぐに結果の確認について、清掃共用のもの、チームで見守る	・結果がすぐに確認できること	・効率的な活用方法を継続して検討していく。	
名前	紙の準備が必要ない結果がすぐにわかる	事前に質問項目の把握ができなかった設定後の確認が難しい。	今後、校内で共有していく予定	データを学校全体のものとして共有していく。	▲設定確認やすぐに結果の確認について、清掃共用のもの、チームで見守る	・結果がすぐに確認できること	・効率的な活用方法を継続して検討していく。	
名前	紙の準備が必要ない結果がすぐにわかる	事前に質問項目の把握ができなかった設定後の確認が難しい。	今後、校内で共有していく予定	データを学校全体のものとして共有していく。	▲設定確認やすぐに結果の確認について、清掃共用のもの、チームで見守る	・結果がすぐに確認できること	・効率的な活用方法を継続して検討していく。	
名前	紙の準備が必要ない結果がすぐにわかる	事前に質問項目の把握ができなかった設定後の確認が難しい。	今後、校内で共有していく予定	データを学校全体のものとして共有していく。	▲設定確認やすぐに結果の確認について、清掃共用のもの、チームで見守る	・結果がすぐに確認できること	・効率的な活用方法を継続して検討していく。	

「Web QU」利用傾向

○結果の即時性

○情報共有の容易さ

活動報告 資料

成 果

○迅速な指導への活用

- ・結果⇒即指導

○情報共有の効率化と組織的対応

- ・組織的な対応による不登校の未前防止等

○個別指導の質の向上

- ・アセスメントとしての効果的な声掛け・働きかけ

課 題

△組織全体での共有

- ・学校全体での共有、具体的な対応に対する全体共有

△効果的な活用

- ・結果を指導に活かす効果的な活用

△システムの操作性

- ・視認性
- ・入力、操作の難しさ
- ・見づらい、分かりづらい(デザイン)

今後の取組

○組織的対応の仕組み化

○継続的な活用と深化

○活用事例の収集と提案

○効果的な活用方法の検討

教育指導の充実に関する研究グループ

3 成果と課題（次年度に向けて）

成 果	課題と今後に向けての取組
<ul style="list-style-type: none">○効果的なICT活用による教員の働き方改革や教育の質向上への貢献、必要性や有用性の理解○児童生徒のAIドリル活用の実態の把握○教員の抱えている、AIドリル活用への困り感の把握と実態に即したリーフレットの作成○「心の天気(各学校のシステム)」による児童生徒の内面理解、早期支援の有効性とシステムとしての課題の明確化○「Web QU」の活用による迅速な対応と今後の組織的な取組の必要性の確認	<ul style="list-style-type: none">△ICTの活用やAIドリルの活用における、教科や学年、教員の個人差<ul style="list-style-type: none">・事例紹介や研修等の、「ICT活用に対する困り感（苦手感）」を軽減する手立ての必要性△取組の方法(時間等)、システムの構築、組織的な情報の共有と活用の工夫・改善<ul style="list-style-type: none">・「誰でも使える」「効果的に運用できる」「組織的に対応する」視点での取組の推進△教員の働き方改革の視点からの、データ共有のシステムの構築（昨年からの課題）